

総 会 報 告

会 員 総 数 : 96名

出 席 者 : 19名

委任状提出者 : 28名

○ 規約第13条に基づき総会成立

1. 開会の挨拶（長谷川瑞穂）

会員皆様のご協力により、AYFの活動も順調にすすんでいること嬉しく思います。今日は出席者19名、委任状提出27名ということで、総会が成立しました。この話し合いで、またこの会がますます発展していくことを願います。

2. 会長挨拶（多賀正夫）

この会は、長年アンコール遺跡修復事業にたずさわってきた中川武早稲田大学教授の同期生を発起人として、2005年7月に設立総会を開いて設立されました。その後、2006年4月末には「やまなみ塾」の校舎が完成し、今年度で4年目に入ります。会員数も96名となり、「やまなみ塾訪問と遺跡見学ツアー」も今年度は4回目となり、来年2月に実施が予定されております。

私たちは、カンボジアの子供たちが少しでも豊かな教育を受けることができるように物的支援をし、世界遺産であるアンコール遺跡の修復・保全につながるような人材が育つことを願っています。子どもたちが自分の国を愛し、カンボジアの歴史・文化に誇りを持ち、自立して生きていくためにさまざまな面で応援できればと思います。また、お互いの交流を通して友好を深めていきたいと考えています。

ただ、こういうことは短期間で結果のではありません。私たち自身も楽しみながら、ゆっくり長く今後も続けていけたらと願っております。

3. 2007年度活動報告及び会計報告 (別紙参照)

4. 現地の様子（中川 武）

① 遺跡修復事業について

- ・バイヨン南経蔵の修復はほとんど完了。これは、日本のスタッフも協力はしたが、カンボジア人主体で行われた初めての修復事業で、画期的なことである。
- ・バイヨン中央塔は、傾きひびがはいっている。これは基礎構造に問題があり、かなり深く掘りさげてみないとわからないし、技術的に非常にむずかしい修復となる。

- ・回廊のレリーフの劣化も進み、問題となっている。日本人のエキスパートに依頼している。

② 塾の現状

- ・子供たちも先生たちも元気にやっている。
先生たち自身も自らの英語力をさら上げようという向上心はあるので、その面でも支援できるといいかと思う。
- ・三田商会様からの寄付で、図書室と多目的ホールを増築し、ほとんど完成している。あと、ジェネレーターとオルガンの寄付もあった。
多目的ホールは、子供たちに絵画や音楽などの情操教育のためや、石工のためのワークショップのためなどに活用できる。次回のツアーの交流会でもいい形で利用できると思う。

5. 2007年度活動案及び予算案についての説明（別紙参照）

6. 役員の改選について

今年度は規約にもとづき、役員を改選の年である。特に新たな役員への立候補者及び推薦者もなかったため、下記の現役員が継続することが、満場一致できた。

代表幹事：多賀正夫

幹事：中川 武、南塚信吾、金岡 隆、長谷川瑞穂、
榊原良一、田口 直、野村裕子、

監査：稲垣宏之、

事務局：山岡直子

7. AYFの今後の活動について（委任状に添えられてあった意見も含む）

① 塾の運営に関連して

- ・子供たちに日本語を学ぶ支援が実現してよかった。
前回のツアーで子供たちが予想以上に日本語に関心があったこと、そして、AYFの会員も増え予算が取れるようになったことで、発足当時の念願に一步前進させることができることとなった。
- ・この度寄贈があった図書室と多目的室の増築で、子供たちにさらに豊かな学びと交わりの場所が提供できてよかった。これまで以上に絵本に親しんだり、音楽や絵画などに接する機会が増えるといい。
- ・塾の子供たちの中にはアンコール・ワットへ行ったことのない子供たちもいるようだ。一度、塾から遺蹟見学の遠足のようなことを計画してもらってはどうか。（費用はファンドが負担する）
- ・英語の先生たちも意欲的なので、先生のスキルアップの支援として、教材を

プレゼントする。(長谷川瑞穂さんに選定を依頼)

② 交流会に関して

- ・学校訪問の際の交流会は時間がたりない感じがした。もう少しゆっくり交流ができるよう時間を割いてほしい。遺跡見学コースと交流コースに分けることも一つの案かもしれない。
- ・子供たちのプレゼントについてももう少し考えてみる必要がある。現地の声として、子供たちがプレゼントをもらうことに慣れっこになってきている面もあるそうです。次回は量や中身を現地の声も聞きながら選択したほうが良い。こちらが、良かれと思ったことで子供たちを阻害しないよう心しなければならぬ。

③ 会員の増大について

- ・賛助会員という枠を作って、少額の会費でもっと多くの方に会員になってもらってはどうかという提案があった。しかし、この会の趣旨に賛同して継続的かつ積極的に支援してくださる方を会員として活動を続けていきたい。この件は、規約第6条（この会の第一期活動期間を2010年9月末までとし、その後5年ごとに、この会の活動内容、運営の見直しを行い、継続の可否を総会で決定する。）に従って決めることとする。

④ 会員相互の交流について

- ・前年度は富山在住の会員が増え、活発に活動しているが、首都圏の会とともにお互いに事前に知らせあって、それぞれへ参加したい人が出席できるようにしてはどうか。
- ・やまなみ塾の子供たちに日本語を、日本の文化を・・・というばかりでなく、私たちがカンボジアの歴史や文化にもっと関心を持つことが大切。そのような姿勢を持ち続けてこそ、ほんとうの文化交流になる。初めはあまり難しいことは考えないほうが長く続く。簡単なクメール語の発音練習をしたり、カンボジアの歴史を勉強する機会をもうけてはどうか。とりあえず今年度の担当として、盛さんと水津さんをお願いすることとなった。

⑤ その他

- ・カンボジアに対する支援をしているボランティア団体が他にも多くあるが、それらの団体と横の連携をとって、AYFの活動をもっと効果的にしてはどうかという意見があった。確かに日本の多くの団体があるが、それぞれ趣旨や目的や構成メンバーが多様であるので、連携はとりにくいと考えられる。AYFは将来的に遺跡修復に結びつくという遠大な目標があるので、独自に活動を続けていく方向で進めたい。
- ・クラウ村周辺の人々との交流を持てたらと考えて、前回のツアーで、野菜の種まきを塾の近くで行った。こちらの思いが十分伝わらなかったことと、種まきの後、継続的に関与できないので、残念ながらうまくいかなかった。近

くに成功している例があるので、次回はまず、その成功例を見学するといいい。

8. 第四回「やまなみ塾」訪問と遺跡見学ツアーについて

会員の皆様にはすでに連絡済みであるが、今年は、ホテルの早期予約のために既に日程を決めている。(2009年2月6日～10日)これから準備会を重ねてこれまでの反省を踏まえて実行に移していきたい。

9. 閉会のあいさつ (野村裕子)

今日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございました。今日話しあわれたことをもとに、会員みんなで考え助け合って、AYFの活動がよりよいものとなっていくことを願って、閉会の挨拶とします。

以上

2008年10月29日

(文責) 事務局 山岡直子